

みんなで語ろ会報告書

対象団体	仙田地区
テーマ	「みんなで語ろう私たちの地域」
開催日時	平成23年11月16日(水) (19時00分～20時30分)
開催場所	開聞児童館
参加者数	区民…29人 指宿市…14人

総計43名

会次第

全体進行・・・市長公室長

- 1 開会のあいさつ (下川悟区長)
- 2 市長あいさつ
- 3 仙田地区の状況報告および課題の提起等 (区長)
- 4 グループごとの協議 (進行・富永副市長)
- 5 各グループの発表・まとめ
- 6 閉会のあいさつ (区長)

内容等

1. 開会のあいさつ (下川悟区長)

私たちが地区を運営していくなかで、さまざま課題が見受けられる。それぞれの集落の代表のみなさん方が集まっていただき、それぞれの課題を持ち寄って頂いた。その課題についてみんなで、そして市の職員とも話のできるいい機会だと思った。日ごろ私たちが共生協働のまちづくりを進める中で、今日の語ろ会がチャンスとなって共生協働が進んでいけばと思う。忌憚のない意見を出していただき、地区そして市の発展につなげて頂ければと思う。

2. 市長あいさつ

今日はみんなが主役である。さまざまな意見を出して頂ければと思う。また私も考えさせて頂きたい。

3. 仙田地区の状況報告および課題の提起等 (区長)

もう69年仙田地区で生活をしているわけだが、本当にこの地区はいいなと思う。自然環境に恵まれ、唐船峡があり、本当に資源が豊富だ。仙田地区には火の神公園という公園があるが、開聞地区が一望でき、仙田地区のよさを改めて感じる。

そして人間関係が非常によい。結という言葉があるが、お互いに助け合う環境がある。世の中は変わりつつあるが、その気持ちが仙田区民には残っていて、うれしく思う。それが仙田地区の一番の財産であり、誇りだと思う。

課題はたくさんあると思う。それは全国共通の課題。まずは少子高齢化。いろんな問題を投げかけている。校長先生と話す機会があるが、小学校への入学も何年か後には4～5人で、複式学級または、存続の危機になっていくということだった。これは開聞小学校も同じような状況にある。昔とは相当変わっている。どのように取り組んでいけばいいのかは、大きな課題。

仙田地区は、新生活運動を始め、指宿市全体で取り組んでいる。これも高齢者のみなさんの声から推進をしている。これから地域全体に浸透していかないといけない。

問題は山積している。みなさんから課題を出して頂き、自分たちでできることは自分たちです、支援を頂くところは支援を頂く、私たちの仙田地区は、私たちで守っていこう。

4. 各グループの発表・まとめ

(4グループに分かれ、その中で各人が次の①②③について提案。それをグループ内で協議し、集約した後に、グループの代表者が発表)

①仙田地区の「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

②仙田地区が、これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

③そのために、自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

1班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・それぞれ自治公民館がある。(特に上手は手作りで作成している)
- ・唐船峡がある(観光地)
- ・ボランティアには総出で参加している(若手のスポーツ同好会も協力的)
- ・墓地公園(憩いの場となっている)
- ・朝市(おふくろのさと)がある。高齢者の交流・生きがいになっている
- ・国道、県道が通っている
- ・開聞岳の眺めがいい
- ・集落内の美化活動もやる(ボランティア活動もさかん)
- ・静かな住宅環境

②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・限界集落に近づいてきた。若者にも定住してほしい
- ・都会から気楽に帰ってこられる環境作り。気軽な宿泊施設が欲しい。公民館の活用などのちのち集落が合併すれば、公民館は不要になる
- ・耕作放棄地、空家をなくす。菜の花を植えるとか。空家をなくすことは災害を防ぐことにつながる
- ・国道沿いの歩道に街灯がない。店舗が閉まり 22 時以降が暗い。ウォーキングが不安
- ・文化財の管理をしっかりとる体制づくり(モクヨ山六地藏塔)。開聞町時代は、町で管理していた

③自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

<指宿市にしてほしいこと>

- ・定住者を増やすために、雇用を増やしてほしい
- ・気軽な宿泊施設の整備のために、布団などを買って欲しい
- ・空家対策のために、お試しの空き家づくりを促進して欲しい
- ・文化財の管理を市でして欲しい

<自分たちにできること>

- ・防犯灯の学校・区からの申請。通学路はやはり整備しないとイケない
- ・従来どおりのボランティア
- ・ひとり暮らしの方々へのひと声運動。お金もかからず、すぐにできる

2班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・隣組との飲み会があり、情報交換ができる
- ・人情が豊かである。絆がある
- ・自然が豊かである
- ・事件等もなく、住みやすい。安全である
- ・高齢者がグループを作って、楽しくゲートボールなどの活動をしている
- ・協体制がいい(奉仕作業、納税 100%)
- ・墓の生花が新しい。毎日墓参りをする。観光バスが一旦停止をするほどである
- ・消防団活動が活発である。若い人が減少するなか、頑張っている
- ・人が優しく親切である
- ・特許を取ったそうめん流しがある

②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・こどもたちの声が聞こえる地域にしたい。地元で子どもを生んでほしい
- ・簡素化運動を進めたい。守りたい

- ・一人暮らしの老人世帯に目を向けたい
- ・就労の場があるといい。若者が定着しない
- ・地元に残ってほしい。農業後継者ぐらいしか残っていない
- ・集落合併を進めてほしい
- ・空家対策をしてほしい（防犯，防災を含めて）。整備をするのにもお金がかかるのが現状
- ・ふるさとに帰ってきて農業をして欲しい。農業にお金がかかるのが問題
- ・高齢者が生活しやすい環境づくりをして欲しい
- ・人と人の絆がさらに強くなるような施策をとってほしい。自分から積極的に声をかける

③自分たちにできることにできること，指宿市にしてほしいこと

<指宿市にしてほしいこと>

- ・ひとり世帯の安全確認ができる施策をしてほしい
- ・空家対策，防犯対策をしてほしい
- ・ひとり世帯を定期的に訪問してほしい
- ・公営施設に地元の人を採用してほしい
- ・集落合併をすすめてほしい
- ・松くい虫を防いで欲しい（松が枯れる）
- ・市職員の地域活動への参加をして欲しい

<自分たちにできること>

- ・自分たちができることは自分たちでやる
- ・やさしい，思いやりのある心で行動する
- ・空家，墓地の点検マップを作成して欲しい
- ・新生活運動のさらなる推進（現状ではなかなか）
- ・集落合併の推進，実現
- ・防犯パトロールの実施
- ・各種団体との連携，協力
- ・奉仕活動への積極的な参加
- ・集落内のハザードマップの作成
- ・自ら進んでボランティアをする

3班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・先祖代々の墓の管理が素晴らしい
- ・困った時の深い絆
- ・人に対する思いやりの心
- ・唐船峡があり，とても水がおいしい。豊富にある
- ・畑，田の管理がしっかりしている
- ・人とのつながりの深さ
- ・児童館がある。（開聞のみ）
- ・自然災害に強く住みやすい地域である
- ・行事等に皆が協力的

②これからどのようになってほしいか，どのようにしていきたいか

- ・高齢者が安心して暮せるまちづくり
- ・一人で暮す方の見守りを市として実施して欲しい。民生委員だけでは難しい
- ・スポーツを通じての体力作り
- ・子ども，高齢者が安心して暮せるまちづくり
- ・自主独立の精神
- ・事件，事故がないように見守りの強化
- ・住みやすい老後の生活環境作り
- ・生活排水の浄化

- ・子育て世代の定住化の促進
- ・子どもから高齢者まで安心して暮せる環境作り

③自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

<指宿市にしてほしいこと>

- ・挨拶運動の実施
- ・道路、歩道整備
- ・行政ができることを必ずして欲しい（例えば情報機器の提供）
- ・生活排水のあり方を考えて欲しい。公共下水道や合併浄化槽の整備
- ・空家の有効活用。市が借り上げて、リフォーム後市営住宅としてはどうか

<自分たちにできること>

- ・進んで挨拶をする。挨拶にはお金はいらない
- ・市の行事等には積極的に参加する
- ・子ども、高齢者の見守り・見回り
- ・ボランティア活動
- ・健康づくり、体力強化
- ・交通安全指導

4班

①「ここが自慢できる」、「ここがいい」というものについて

- ・自然がいっぱいある
- ・高齢者への声かけがよくできている
- ・農家一戸あたりの耕地面積が多い。畜産、園芸も盛ん
- ・講のならわしが残っている
- ・住民が素直な人が多い
- ・郷土芸能が残っている
- ・自然災害が少ない

②これからどのようになってほしいか、どのようにしていきたいか

- ・道が分かりやすくなって欲しい。地区内にマップを作って欲しい
- ・人口が増加して欲しい
- ・子どもが増えて欲しい
- ・カップルが増えて欲しい。子どもは一人では生まれてこない
- ・現在7つの集落があるが合併するなどして、大きな集落になって欲しい

③自分たちにできること、指宿市にしてほしいこと

<指宿市にしてほしいこと>

- ・道路の整備を行って欲しい。
- ・市営住宅を作って欲しい（空家をリフォームとして活用）
- ・集落合併を市で手伝って欲しい
- ・畑の中にトイレを作って欲しい。簡易トイレ
- ・結婚しない若者が多いので、お見合いなどに取り組んで欲しい。結婚相談所が欲しい
- ・雇用の場を作って欲しい。都会でも開聞の出身者が多い。帰省できないのは職場がないのが問題

<自分たちにできること>

- ・地区内のマップ作りを子どもたちと取り組む
- ・ボランティア活動をする
- ・高齢者の見回りをする

【その他意見発表】

(副市長)

- ・市の職員の地域活動と言う意見がでたが、市では職員に3Dチャレンジシートというものを作成

させている。「できるひとが、できるときに、できることを」と地区活動に参加するように呼びかけている。私からも呼びかけていくので、みなさんからも声かけをしていただければと思う。

【まとめ】

(豊留市長)

- ・今回は「市長と語る会」ではなく「みんなで語る会」とさせて頂いた。自分の考えを自分で言って、それで発表して何か決めることを決めて、それを実現しましょうと。一つか二つかは実践できる取組をしましょうと。今までのように協議だけして、実現しないということもなくしたかった。
- ・私なりにすぐできることは何かということ考えた。たとえば挨拶運動。市役所職員または、地区民があいさつ、声かけをすること。
- ・地区を変えようと思ったら形がわかるような変え方をする事が必要だ。例えば、栗野の轟という場所がある。この地区は、この時期になれば、全ての道がイルミネーションをしている。県外からも見に来る。今年のテーマを決めて飾りつけをして、空き地では焼き芋や串などを販売していて、週末には車が並ぶ。都会にいる子どもたちが帰ってきたときに、自分たちの地域はこんなにきれいで自慢できるまちを作ろうとみんなで動いた結果だ。鹿児島県内で一番きれいな場所だと思う。ぜひみなさんで視察に行ってもらいたい。学校でも飾りつけをしている。
- ・「何かをみんなでしよう」と、それをきっかけにして絆を深めたのが、轟地域だ。空家がたくさんあって、そこに人を呼び寄せたいとしたのが、やねだんだ。整備をしたら、東京からの美術家が今生活している。
- ・今後この仙田地区をどうしていきたいのかという目標がきちんと決まったら、その目標を実現するためには、その行程表を作ってやっていかないと地域は変わらない。
- ・唐船峡を活かす方法も行政と一緒に考えていかないといけない。
- ・孤独死を防ぐためにどうするか、それが私たちの知恵だ。たとえば夕焼け小焼けの時には外に出て運動をすとか。老人はなかなか家に引きこもって運動をしなくなる。孤独死に繋がる。高齢者が幸せに暮らせるためには、どうしたらいいのかを私も考えるのでみんなにも考えて欲しい。予算を組みながら、仙田に生まれてよかったというまちづくりをしないといけない。何ができるのか、どうしたらいいのか、またその回答をさせて頂きたい。

7. 閉会のあいさつ

・本当にたくさんの意見がでたなと改めて感じたところだ。多くの示唆を頂いた。今後仙田地区の運営にどのようにいかしていけばいいか、市とも相談しないといけないこともある。今日の会議がこれからの仙田地区に明るい光となることと思う。